

【第3回アンケート調査 全世帯配布】

■調査期間：2021年8月20日～10月3日

■調査方法：広報なかぐすくと合わせて配布、郵送による回収

■調査対象：中城村全世帯（8,340通）

■回収数：1423通（うち無効票2票）

■回収率：17.0%

■実施概要：

第1回、第2回のWEBアンケートに対する回答者が少なかったことに加え、予定していた住民会議が新型コロナウイルス感染症の影響により開催不可の判断となったため、より多くの村民意向を調査するため、全世帯対象のアンケート調査を再度実施した。また回答率を上げるため、抽選でクオカードが当たるキャンペーン企画も併せて実施した。

■調査結果：

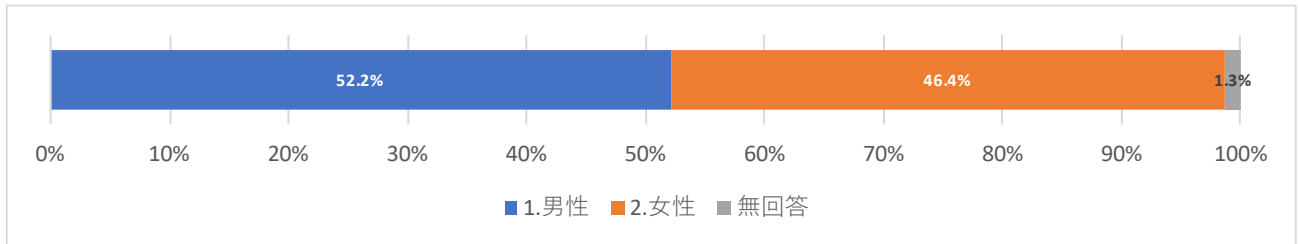
①（基本集計）

（1）属性

【性別】 N=1421

	回答数
①男性	742
②女性	660
無回答	19

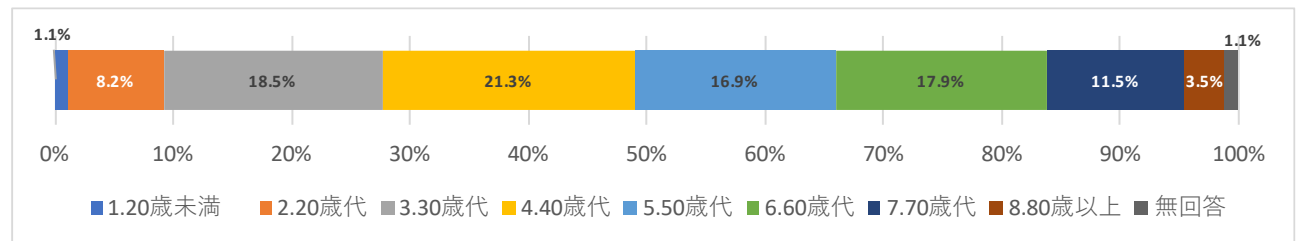
所見
性別に関しては「男性」の方が若干多い傾向であったが、これは世帯主を対象として実施したアンケートであることによると考えられる。



【年齢】 N=1421

	回答数
①20歳未満	15
②20歳代	116
③30歳代	263
④40歳代	303
⑤50歳代	240
⑥60歳代	255
⑦70歳代	163
⑧80歳以上	50
無回答	16

所見
年齢に関しては「20歳未満」「20歳代」と「80歳以上」が若干少なく、逆に「40歳代」の回答が最も多かった。これに関しても性別と同じく世帯主を対象として実施したアンケートであることによると考えられる。



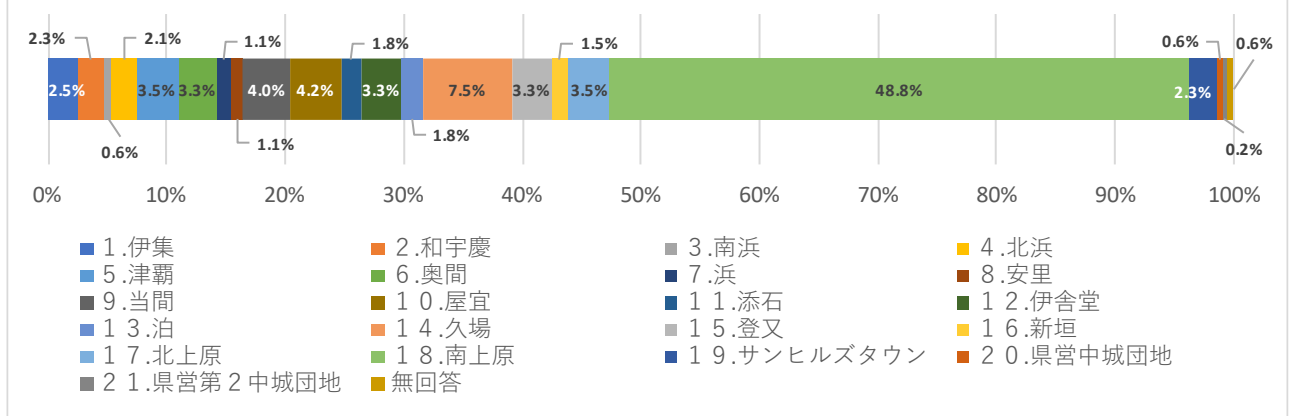
【住んでいる場所】

N=1421

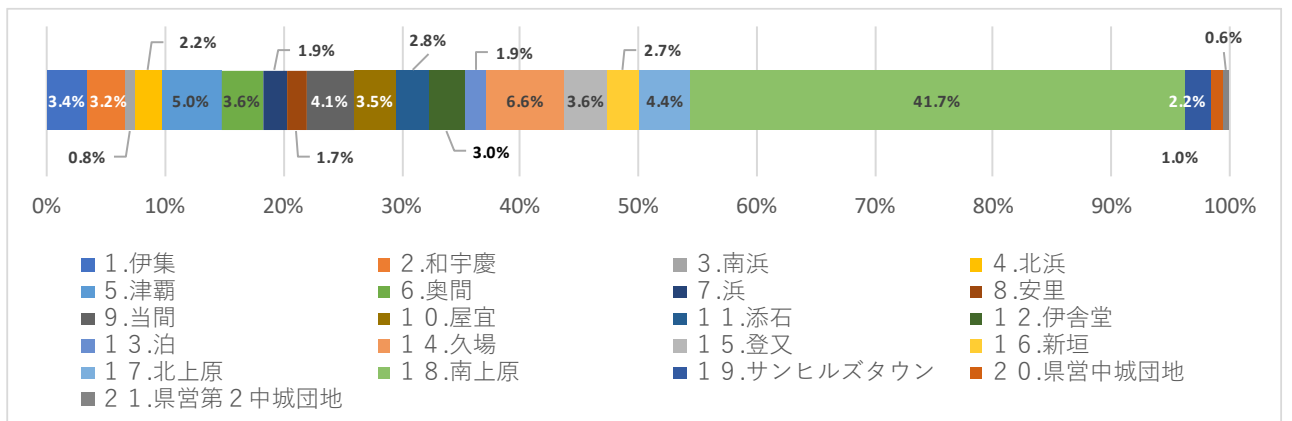
	回答数
①伊集	35
②和宇慶	32
③南浜	9
④北浜	30
⑤津覇	50
⑥奥間	47
⑦浜	15
⑧安里	16
⑨当間	57
⑩屋宜	60
⑪添石	25
⑫伊舎堂	47
⑬泊	26
⑭久場	107
⑮登又	47
⑯新垣	21
⑰北上原	50
⑱南上原	694
⑲サンヒルズタウン	32
⑳県営中城団地	9
㉑県営第2中城団地	3
無回答	9

所見

村全体の世帯割合と比較すると、「南上原」の回答率が高くなっており、それに押される形でその他の字の回答率が若干少なくなっている。しかし全体を通してみると字ごとの世帯割合と今回の回答者の世帯割合については大きな差はないと考えられる。



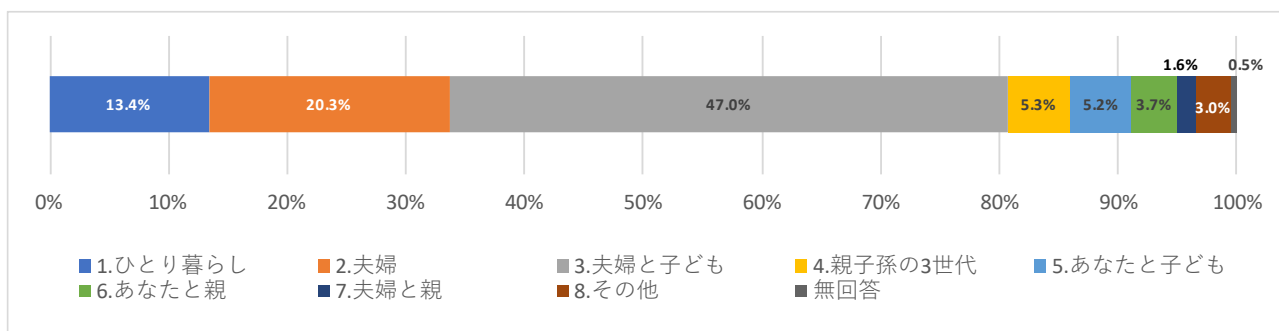
※参考：全世帯数に占める字ごとの世帯割合（R3.9 末時点、村資料）



【家族構成】 N=1421

	回答数
①ひとり暮らし	191
②夫婦	288
③夫婦と子ども	668
④親子孫の3世代	75
⑤あなたと子ども	74
⑥あなたと親	53
⑦夫婦と親	23
⑧その他	42
無回答	7

所見
 家族構成をみると「夫婦と子ども」と答えた世帯が46.8%と半数近くを占めている。第4次総合計画策定時に実施したアンケートと比較すると、「夫婦」と答えた人の割合が5.3%の増加、「夫婦と子ども」と答えた人の割合が2.5%増加しているのに比べて「親子孫の3世代」と答えた人の割合は8.3%減少しており、中城村においても核家族世帯が増加していると考えられる。またその他回答については兄弟姉妹や結婚していないパートナー、恋人などの回答が多かった。

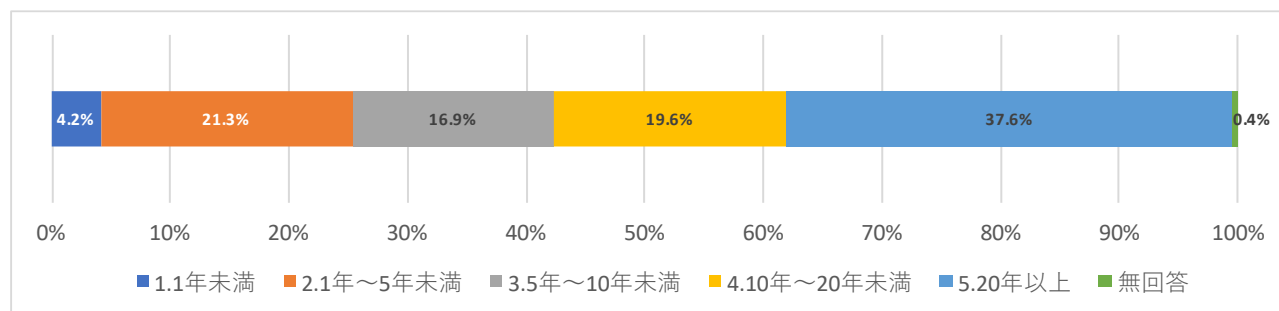


※その他回答については別紙参照

【居住年数】 N=1421

	回答数
①1年未満	59
②1年～5年未満	303
③5年～10年未満	240
④10年～20年未満	279
⑤20年以上	534
無回答	6

所見
 居住年数については「20年以上」と回答した人が最も多く、次いで「1年～5年未満」となっている。これは南上原地区の回答者の割合が多かったことが要因の一つとして考えられるが、昨今の村への転入超が大きな要因であると考えられる。



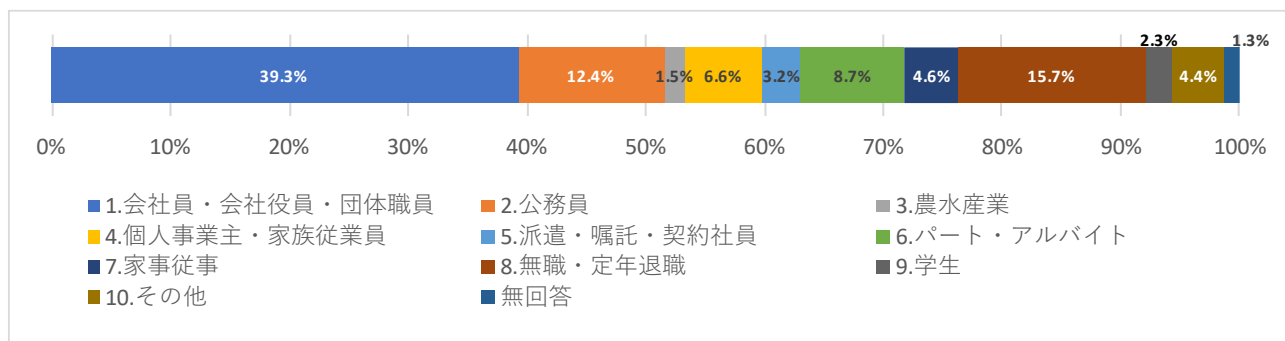
【職業】 N=1421

	回答数
①会社員・会社役員・団体職員	558
②公務員	176
③農水産業	22
④個人事業主・家族従業員	94
⑤派遣・嘱託・契約社員	46
⑥パート・アルバイト	124
⑦家事従事	65
⑧無職・定年退職	223
⑨学生	32
⑩その他	62
無回答	19

所見

職業については「会社員・会社役員・団体職員」が最も多く、次が「無職・定年退職」となっている。定年退職の可能性が高い60歳代以上は全体の約32%であるが、コロナ禍による失業等も考えられることから、学生を除く20歳未満～50歳代までの「無職・定年退職」の割合も注意して見ていく必要がある。

またその他回答として医療・介護関係や自営業、建設業、不動産、再雇用などの回答があった。



【居住形態】

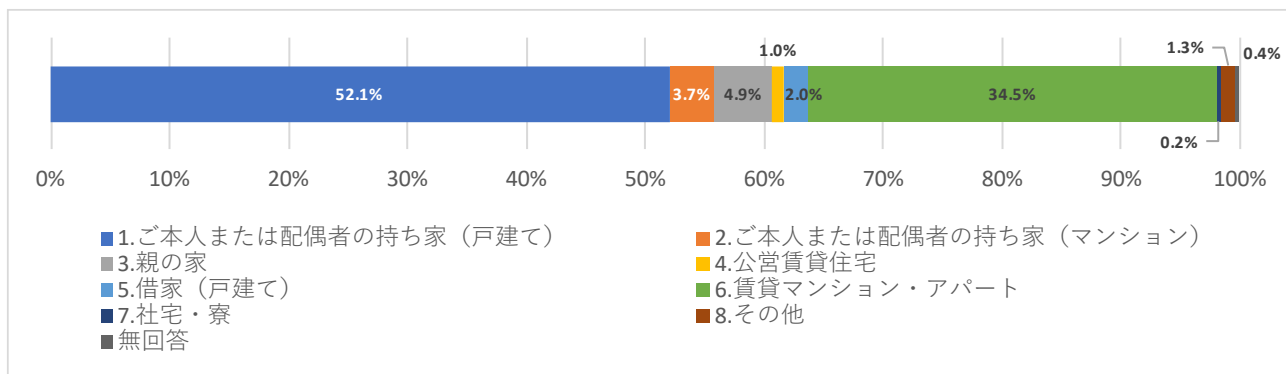
N = 1421

	回答数
①ご本人または配偶者の持ち家（戸建て）	740
②ご本人または配偶者の持ち家（マンション）	52
③親の家	70
④公営賃貸住宅	14
⑤借家（戸建て）	29
⑥賃貸マンション・アパート	490
⑦社宅・寮	3
⑧その他	18
無回答	5

所見

居住形態については「ご本人または配偶者の持ち家（戸建て）」が52.1%で半数以上を占めた。「ご本人または配偶者の持ち家（マンション）」「親の家」まで含めると持ち家であるとの回答率は60.7%と6割を超えている。次いで「賃貸マンション・アパート」が34.5%と続くが、これは南上原居住の回答者が多いことが要因であると考えられる。

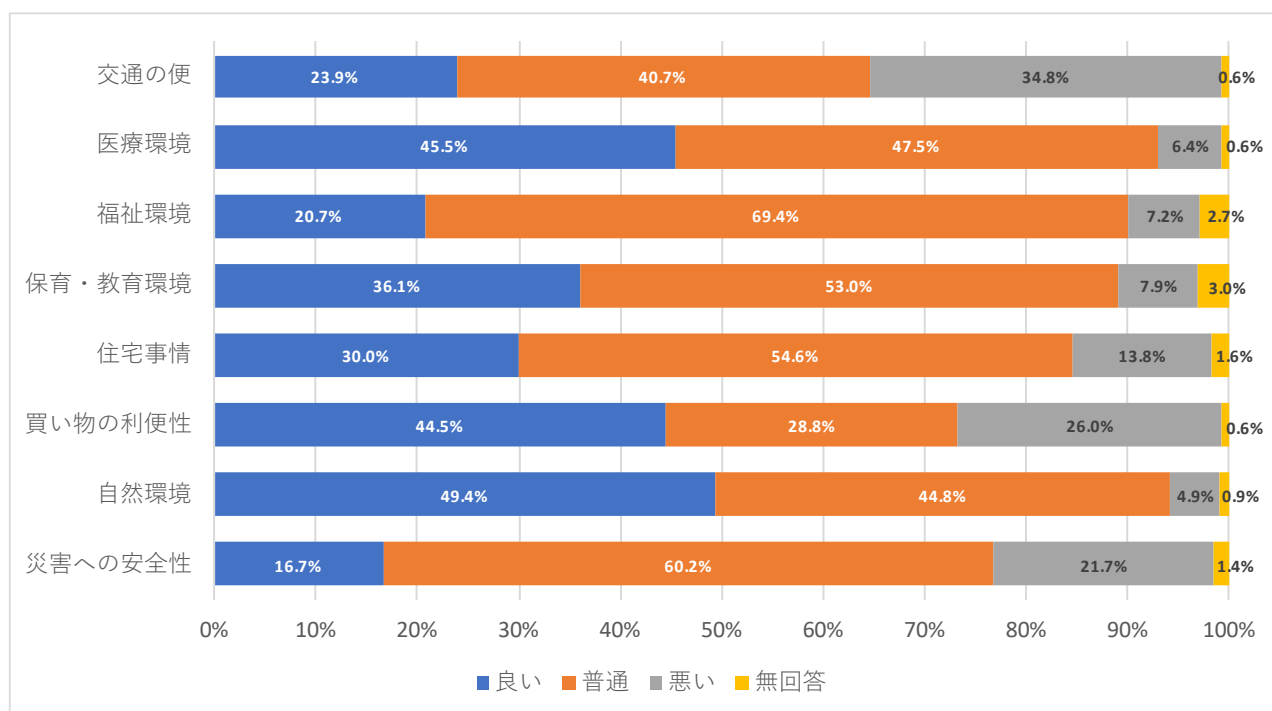
またその他回答については子どもの家、兄弟の家などがあった。



(2) あなたの身のまわりの生活環境について

【問1 生活環境に対する評価】 N=1421

項目	回答数			
	良い	普通	悪い	無回答
①交通の便	339	579	494	9
②医療環境	646	675	91	9
③福祉環境	294	976	102	39
④保育・教育環境	513	753	112	43
⑤住宅事情	426	776	196	23
⑥買い物の利便性	633	409	370	9
⑦自然環境	702	637	69	13
⑧災害への安全性	237	855	309	20

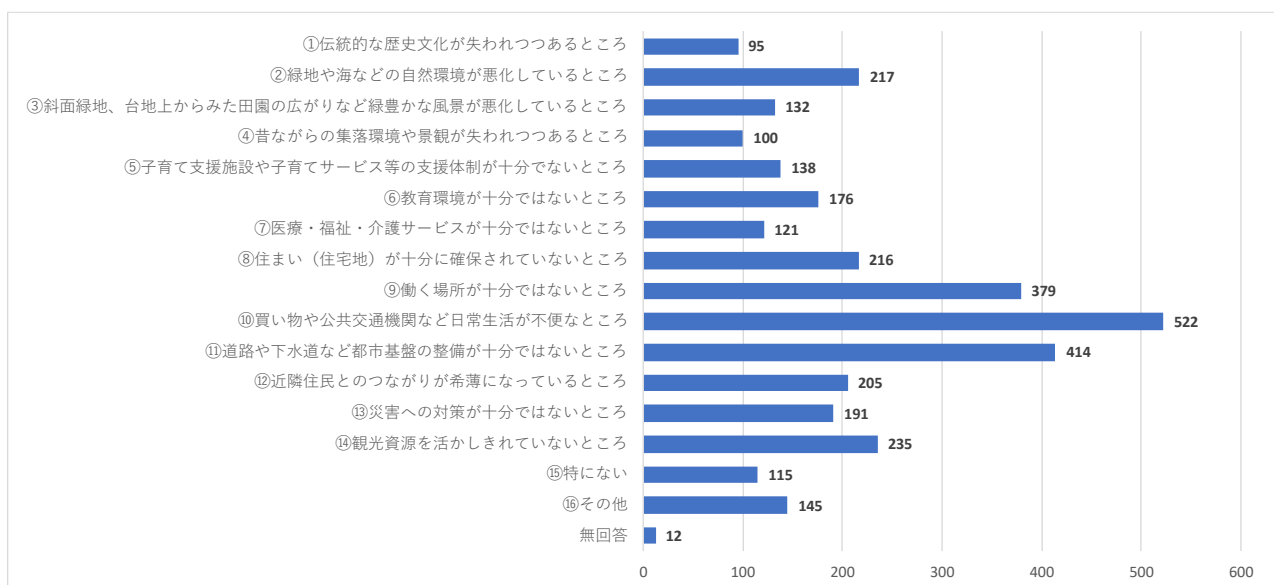


【所見】

身のまわりの生活環境について比較的「良い」が多かったものは「医療環境」「保育・教育環境」「自然環境」「買い物の利便性」であり、逆に比較的「悪い」が多かったものは「交通の便」「買い物の利便性」「災害への安全性」であった。「買い物の利便性」については「良い」と「悪い」が両方多くなっており、これについては回答者の居住地や年齢を加味して再度分析を行う必要がある。

【問2 中城村の課題（3つまで）】 有効回答=1366

	回答数
①伝統的な歴史文化が失われつつあるところ	95
②緑地や海などの自然環境が悪化しているところ	217
③斜面緑地、台地上からみた田園の広がりなど緑豊かな風景が悪化しているところ	132
④昔ながらの集落環境や景観が失われつつあるところ	100
⑤子育て支援施設や子育てサービス等の支援体制が十分でないところ	138
⑥教育環境が十分ではないところ	176
⑦医療・福祉・介護サービスが十分ではないところ	121
⑧住まい（住宅地）が十分に確保されていないところ	216
⑨働く場所が十分ではないところ	379
⑩買い物や公共交通機関など日常生活が不便なところ	522
⑪道路や下水道など都市基盤の整備が十分ではないところ	414
⑫近隣住民とのつながりが希薄になっているところ	205
⑬災害への対策が十分ではないところ	191
⑭観光資源を活かしきれていないところ	235
⑮特にない	115
⑯その他	145
無回答	12



【所見】

中城村の課題として、「買い物や公共交通の不便さ」「道路や都市基盤の整備の不十分さ」「働く場所の不十分さ」が上位3つとなり、村内で生活していく上での基盤となる部分について特に課題であると認識されている。

※その他回答については別紙参照

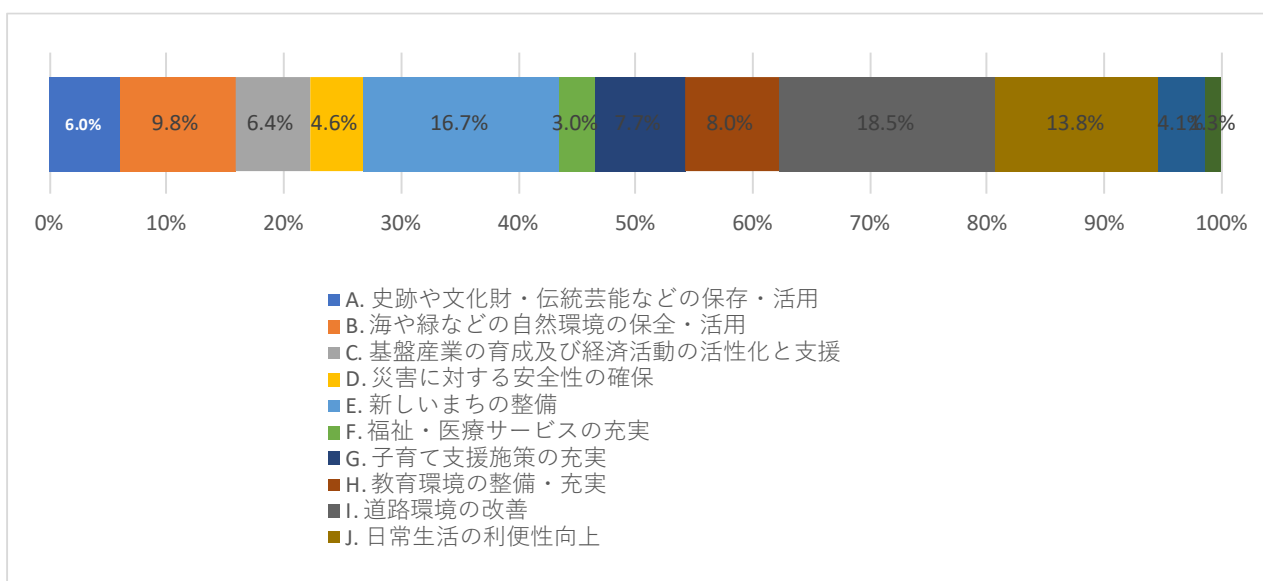
(3) 今後の中城村の村づくりについて

【問3 村の将来イメージ】 有効回答=1,069

※問3を分析する際に留意することとして、この設問に関しては回答ミスが多く、全体における24.8%が該当する。そのため、分析は有効回答のみとして行っているが、村民の評価として正しいかは注意してみる必要がある。

①大項目（A～K）の回答割合

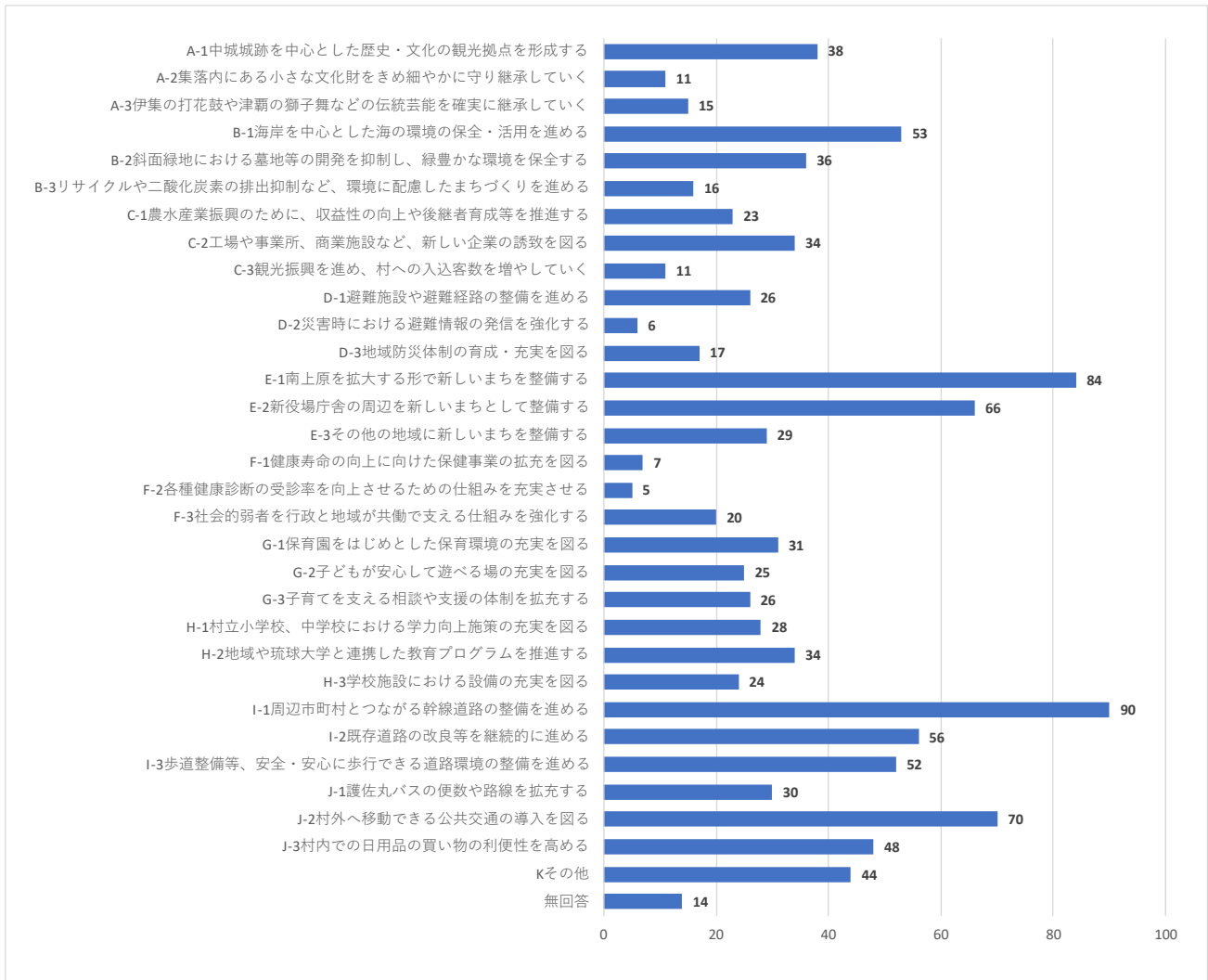
大項目	回答数
A.史跡や文化財・伝統芸能などの保存・活用	64
B.海や緑などの自然環境の保全・活用	105
C.基盤産業の育成及び経済活動の活性化と支援	68
D.災害に対する安全性の確保	49
E.新しいまちの整備	179
F.福祉・医療サービスの充実	32
G.子育て支援施策の充実	82
H.教育環境の整備・充実	86
I.道路環境の改善	198
J.日常生活の利便性向上	148
K.その他	44
無回答	14



【所見】

大項目については、「I 道路環境の改善」「E 新しいまちの整備」「J 日常生活の利便性向上」が上位3つとなっており都市計画や基盤整備への取組みを望む意見が多く見られた。逆に「F 福祉・医療サービスの充実」や「災害に対する安全性の確保」については回答数が低くなっている。

大項目	小項目	回答数
A. 史跡や文化財・伝統芸能などの保存・活用	①中城城跡を中心とした歴史・文化の観光拠点を形成する	38
	②集落内にある小さな文化財をきめ細やかに守り継承していく	11
	③伊集の打花鼓や津覇の獅子舞などの伝統芸能を確実に継承していく	15
B. 海や緑などの自然環境の保全・活用	①海岸を中心とした海の環境の保全・活用を進める	53
	②斜面緑地における墓地等の開発を抑制し、緑豊かな環境を保全する	36
	③リサイクルや二酸化炭素の排出抑制など、環境に配慮したまちづくりを進める	16
C. 基盤産業の育成及び経済活動の活性化と支援	①農水産業振興のために、収益性の向上や後継者育成等を推進する	23
	②工場や事業所、商業施設など、新しい企業の誘致を図る	34
	③観光振興を進め、村への入込客数を増やしていく	11
D. 災害に対する安全性の確保	①避難施設や避難経路の整備を進める	26
	②災害時における避難情報の発信を強化する	6
	③地域防災体制の育成・充実を図る	17
E. 新しいまちの整備	①南上原を拡大する形で新しいまちを整備する	84
	②新役場庁舎の周辺を新しいまちとして整備する	66
	③その他の地域に新しいまちを整備する	29
F. 福祉・医療サービスの充実	①健康寿命の向上に向けた保健事業の拡充を図る	7
	②各種健康診断の受診率を向上させるための仕組みを充実させる	5
	③社会的弱者を行政と地域が共働で支える仕組みを強化する	20
G. 子育て支援施策の充実	①保育園をはじめとした保育環境の充実を図る	31
	②子どもが安心して遊べる場の充実を図る	25
	③子育てを支える相談や支援の体制を拡充する	26
H. 教育環境の整備・充実	①村立小学校、中学校における学力向上施策の充実を図る	28
	②地域や琉球大学と連携した教育プログラムを推進する	34
	③学校施設における設備の充実を図る	24
I. 道路環境の改善	①周辺市町村とつながる幹線道路の整備を進める	90
	②既存道路の改良等を継続的に進める	56
	③歩道整備等、安全・安心に歩行できる道路環境の整備を進める	52
J. 日常生活の利便性向上	①護佐丸バスの便数や路線を拡充する	30
	②村外へ移動できる公共交通の導入を図る	70
	③村内での日用品の買い物の利便性を高める	48
K. その他		44
無回答		14



【所見】

将来イメージをさらに詳しく見ていくと、特に多いのは「市街地とつながる幹線道路の整備を進める」「南上原を拡大する形であたらしいまちを整備する」「村外へ移動できる公共共通の導入を図る」が上位であり、やはり基盤整備や交通網の整備拡充を望む声が多い。

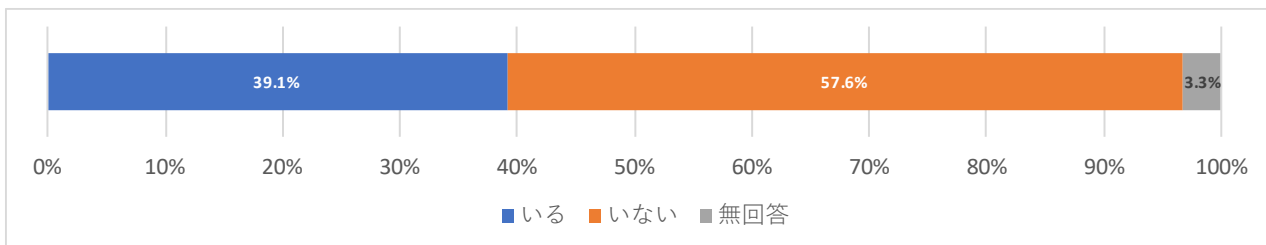
※その他回答については別紙参照

(4) 子育てについて

【問4 子どもの有無】 N=1421

	回答数
①いる	556
②いない	818
無回答	47

所見
子どもが「いる」と答えた人の割合は 39.1%であった。ただし3世代同居の家庭があるため、自分の子ではなく孫である可能性も少数ではあるが考えられる。

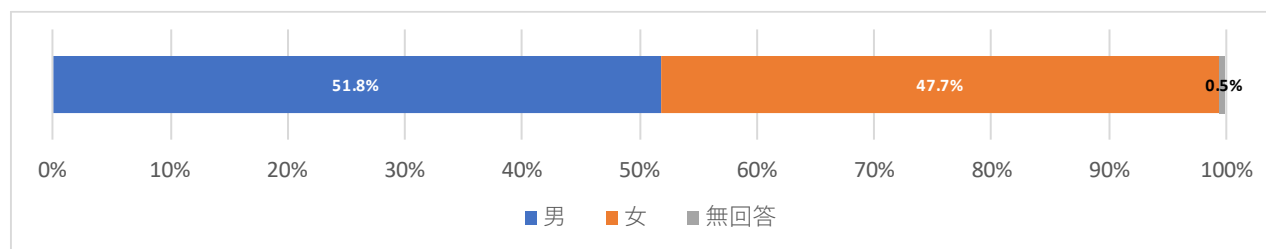


【問5 子どもの性別・年齢/学年・人数について】

■性別 N=1105

	回答数
男	572
女	527
無回答	6

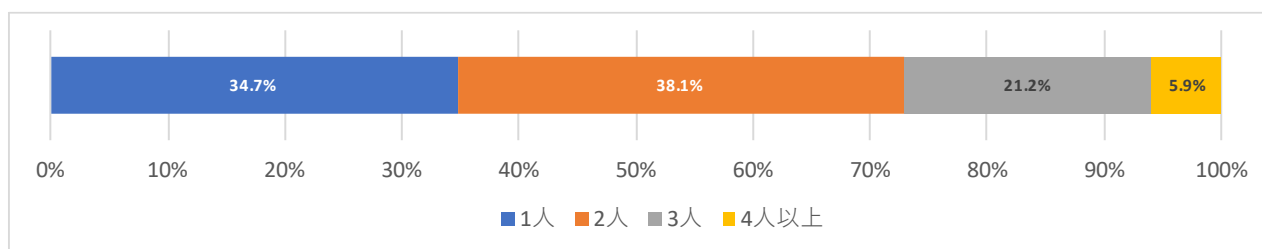
所見
「男」が若干多いものの特に偏りのない結果である。



■子どもの人数 N=556

	回答数
1人	193
2人	212
3人	118
4人以上	33
無回答	0

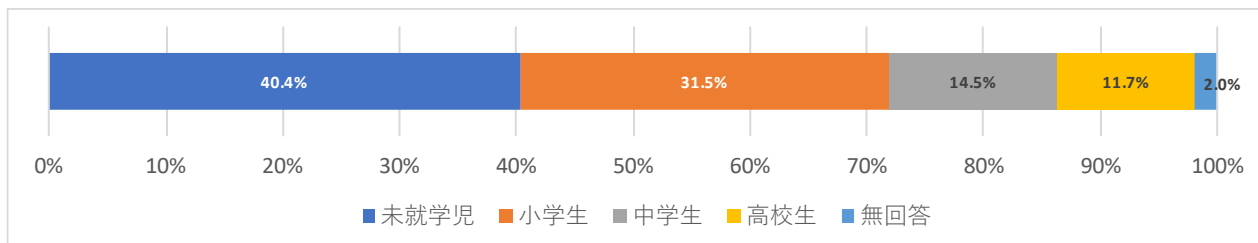
所見
子どもの人数が「1人」「2人」が割合として高く、「4人以上」は1割に満たない割合である。



■子どもの学年 N=1105

	回答数
未就学児	446
小学生	348
中学生	160
高校生	129
無回答	22

所見
子どもの年齢、学年については「未就学児」が最も多く、次いで「小学生」「中学生」「高校生」である。 年齢別でみると、全ての学齢で偏りなく回答されている。

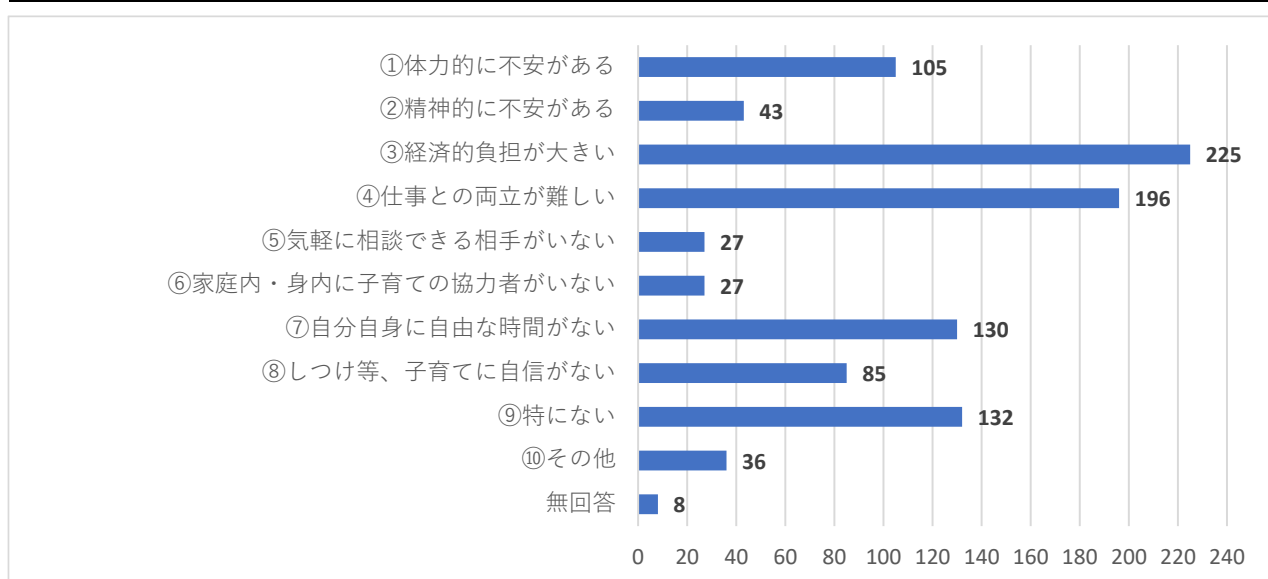


※参考 (年齢・学年別人数)

0歳	81	小1	74	中1	54
1歳	57	小2	58	中2	52
2歳	64	小3	58	中3	54
3歳	70	小4	62	高1	46
4歳	62	小5	46	高2	41
5歳	77	小6	50	高3	42
6歳	35			無回答	22

【問6 子育て中の悩みや心配について（3つまで）】 N=1014

	回答数
①体力的に不安がある	105
②精神的に不安がある	43
③経済的負担が大きい	225
④仕事との両立が難しい	196
⑤気軽に相談できる相手がいない	27
⑥家庭内・身内に子育ての協力者がいない	27
⑦自分自身に自由な時間がない	130
⑧しつけ等、子育てに自信がない	85
⑨特にない	132
⑩その他	36
無回答	8



【所見】

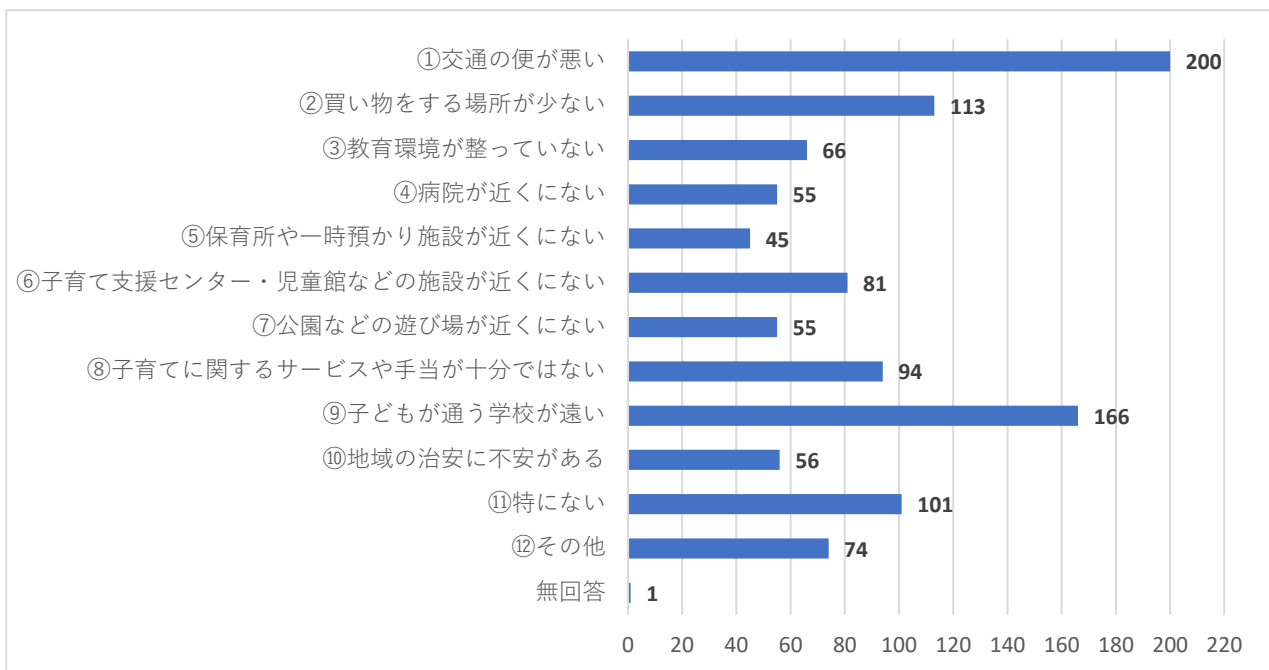
子育て中の悩みや心配については、「経済的負担」と「仕事との両立」が特に多くなっている。逆に「精神的に不安」「相談相手がいない」「家庭内・身内に協力者がいない」という設問については回答数が低くなっており、地域も含めた身近な部分で子育ての協力を得ることができている人が多いと考えられる。また「特にない」という回答も多かった。

その他回答としては、コロナ禍での影響はじめ、学校以外の学習環境（塾や習い事）についてや、小中学校が遠いといった意見が多く挙げられた。

※その他回答については別紙参照

【問7 子育てしにくいと感じるところについて（3つまで）】 N=1107

	回答数
①交通の便が悪い	200
②買い物をする場所が少ない	113
③教育環境が整っていない	66
④病院が近くにない	55
⑤保育所や一時預かり施設が近くにない	45
⑥子育て支援センター・児童館などの施設が近くにない	81
⑦公園などの遊び場が近くにない	55
⑧子育てに関するサービスや手当が十分ではない	94
⑨子どもが通う学校が遠い	166
⑩地域の治安に不安がある	56
⑪特にない	101
⑫その他	74
無回答	1



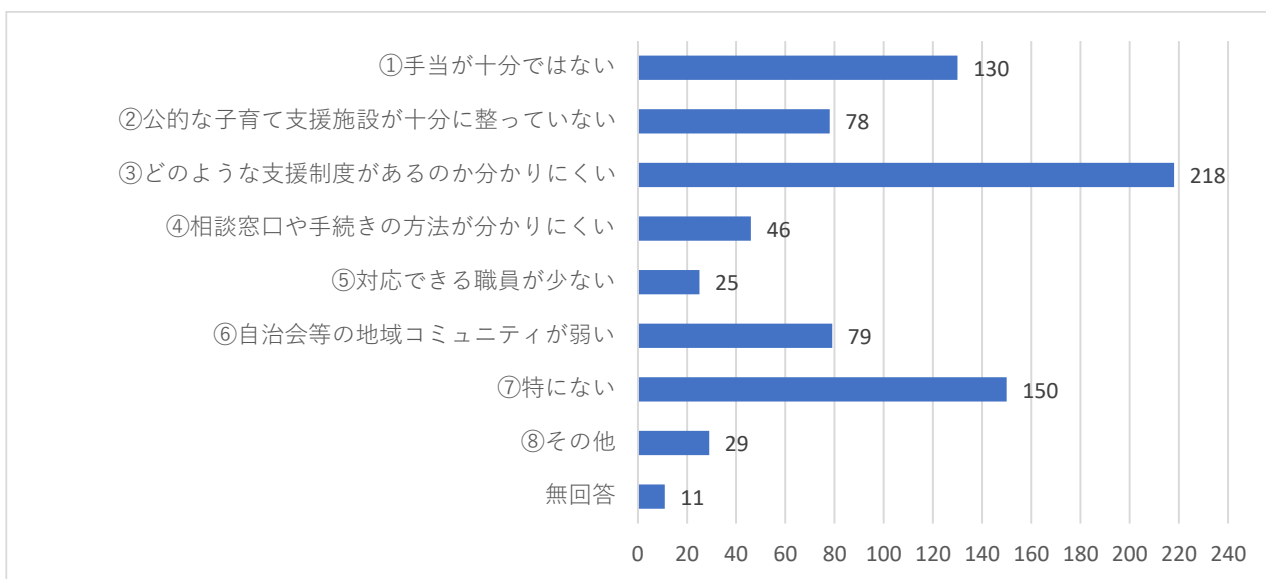
【所見】

子育てしにくいと感じることについては「交通の便が悪い」が圧倒的に多かった。また「子どもが通う学校が遠い」も併せて多くなっており、遠方の小中学校への登下校の不安もこの2項目への回答数が多かった要因として考えられる。回答数の多かった2項目に関しては居住地によって評価が分かれると考えられるので、詳しい分析は居住地のクロス集計を行う必要がある。

またその他回答については病院や病児保育の充実や護佐丸バスの利便性について、公園など身近なこどもの遊び場についてなどの意見が多く挙げられた。

【問8 子育て・教育支援体制や制度について（2つまで）】 N=766

	回答数
①手当が十分ではない	130
②公的な子育て支援施設が十分に整っていない	78
③どのような支援制度があるのか分かりにくい	218
④相談窓口や手続きの方法が分かりにくい	46
⑤対応できる職員が少ない	25
⑥自治会等の地域コミュニティが弱い	79
⑦特にない	150
⑧その他	29
無回答	11



【所見】

支援体制や制度については「どのような支援制度があるかわかりにくい」という回答が圧倒的に多かった。しかし「特にない」と答えた人もそれに次いで多く、村の広報が一定の成果をあげているとも考えられる。また「手当が十分でない」という回答も多く、問6において「経済的支援」「仕事との両立」が課題として挙げられたことにつながると考えられる。

その他回答については通学等への交通費の支援や上地区と下地区の小学校格差を心配する声、役場職員への要望等が多く挙げられた。

(5) 自由記述

※省略